

第6回 鳥取駅周辺再整備に係る四者連携協議会 議事概要

- 1 日 時 令和8年3月11日(水)9時30分～11時
- 2 場 所 鳥取市役所本庁舎市民交流棟 2階 多目的室1
- 3 議事内容

【開 会】

本事業は50年に1度の規模であり市民の関心が高い中、検討の進め方(全体デザインの示し方、検討スピード等)について様々な意見を頂戴している。一方で、市民にとって魅力ある駅前再生の実現には慎重な検討が必要であり、慎重に進める中で優れたアイデアが生まれることもある。これまでの検討を経て構想は着実に固まりつつある。建設的・前向きな議論をお願いしたい。

【議題(1) 進捗報告事項】※事務局から説明

- 1) 検討経緯(更新版)
- 2) 第7回駅まち空間デザイン検討部会の報告
- 3) 県警本部との意見交換の報告

【議題(2) 第5回四者連携協議会の主な意見と対応状況】※事務局から説明

- 1) 主な意見と対応状況

【議題(3) 整備計画(素案)について】※事務局から説明

- 1) 目次構成案
- 2) 整備計画(素案)について
- 3) 整備計画策定までのスケジュール案

【議題(4) 意見交換】

1) これまでの検討と推進体制について

- ・ 中心的な役割を担い、様々な意見を丁寧に取りまとめていただき感謝申し上げます。県知事が本取組みに対する応分の負担を明言しており、今後も協調しながら検討を進めさせていただきたい。ただし、前提として、引き続き鳥取市には強いリーダーシップを発揮いただきたい。

2) 複合施設について

- ・ 施設の建物自体については民間事業者が建設し、その施設内にテナントとして公共施設が入ることを想定している。公共部分に関しては、市民、特に若者世代との意見交換を重ねる中で、「学生や子どもたちが遊べる、交流できる、勉強できる」機能が求められていることを把握し、そのような役割を果たせる設えを想定し、事業費を計上している。
- ・ 整備計画(素案)p.4-40に今後の展開について整理をしているが、来年度以降、複合施設にテーマを絞った市民ワークショップを開催予定である。その結果も踏まえた上で、複合施設に関わる基本計画を策定する予定である。複合施設の事業化までは、検討・調整に時間を要することもあるため、市民・県民の意見やアイデアを踏まえながら、構想の解像度を高めていく

い。

- ・公共機能として求められる機能を整理した上で、民間事業者にも採算性を確認しながら検討を進めていく想定である。
- ・民間事業者へのサウンディング等は今年秋ごろから準備を含めて着手する予定である。複合施設に設ける公共機能の考え方について市の考え方を整備計画に盛り込むので、その方向性で民間事業者に参画いただけるか、調査をしていく。
- ・複合施設は計画の要である。要となる複合施設については周辺との相乗効果を発揮することを前提として検討いただきたい。用地について、県としても協力したいが、全体の整備費は整備手法が変わると認識している。事業計画について検討・調整が進むよう県としても協力したい。
- ・複合施設については、住民が立ち寄りやすい、行きたくなる施設を目指して整備し、賑わいに繋がる効果が発揮されるよう検討を進める。まち歩きのカギになるのが複合施設と認識している。
- ・事業費についても各所に相談しながら検討し、共通の認識を持ったうえで公表させていただきたい。
- ・整備手法について、サウンディング後でも構わないので提示いただきたい。基本的には民間事業者が建設する方針であるが、行政が主体となることで建設費を抑えられる可能性も否定できない。検討プロセスや選択肢を随時公表しながら検討を進めていただきたい。

3) 駅前県道の平面横断化と地下道の存廃について

- ・資料1の中で駅前県道の平面横断化についての検討経緯が掲載されているが、現状の地下道は老朽化が進み、暗い通路であると認識している。雨天時の通行しやすさというメリットもあるが、駅まち空間デザインの観点からも、再整備後の景観を阻害する点やバリアフリーへの対応が課題である。平面横断についての検討を進める中で、地下道の撤去についても前向きに検討いただきたい。
- ・平面横断については、引き続き議論するテーマと考えているが、特に障がい者団体から強く要望を頂戴している。道路管理者や県警とも協議を重ねながら検討を進める方針である。
- ・地下道を災害物資の備蓄倉庫として活用するなど、多様な活用方法を検討することも考えられる。
- ・地下道の存廃について詳細に検討いただいている。商工会議所からは廃止を望む意見もある一方、地下道の有効性を頼りにしている市民も一定数存在すると考える。詳細なメリット・デメリットを公開したうえで、市民の意見を広く集めた上で、検討することが望ましい。横断の設定（平面横断のみ、地下道と平面横断の併用等）によって市民の受け止め方と意見が変わることが想定される。横断時の信号待ち時間等、具体的な設定を含めて情報を公表して、市民意見を募るべきである。ただし、地下道を絶対に存続すべきという趣旨ではなく、飽くまで市民意見を募るべきという趣旨である。県警とも議論を重ねていただいているが引き続きお願いしたい。

4) 整備計画（素案）の情報発信について

- ・整備計画はかなりの情報量、ページ数であり、多くの市民にとってはわかりにくいと感じるのではないかと。市民に対して、今後の駅のイメージが伝わるような周知・情報発信の工夫や概要版の作成について検討いただきたい。

- ・人流を含めて定量的に丁寧に分析した上で検討している印象を受けた。人流が活性化されれば商店ができ、まちが活性化され、好循環が生まれる。その点が市民にも伝わるようにPRしていただきたい。

5) デザインコンセプトについて

- ・駅前広場にかける大屋根は挑戦的だと感じる。完成すれば象徴的な存在になると考える。眺望も含めて、観光客も駅まち空間や街並みに心を動かされるのではないか。ただし、大きな構造物であるため、安全性の担保や駅舎との構造上、設備上の接続に関して詳細に検討する必要がある。
- ・駅前広場については、避暑の観点も含めて、大屋根をかけることが望ましいと感じる。
- ・大屋根も含めたデザインについて、風紋という鳥取市の表玄関にふさわしいデザインコンセプトで検討いただいているが、イメージを市民に公表しながら様々な意見を頂戴し、その意見を反映していくという方針が望ましいと考える。
- ・方向性として鳥取らしさを出すことには賛成である。県内の他事例も参考にすると、JRとの連続性を考慮することで市民にとっても、来訪者にとっても魅力的な空間になるかと考える。JRとの連携は密に実施いただくことを期待する。
- ・再整備の構想の中に、駅舎の改修等が見込まれる事業が組み込まれているように見受けられる。特に、東側通路に関しては、JRと事務局間で認識調整が必要である。引き続き調整させていただきたい。

6) 民間参画について

- ・民間事業者に求められる役割、期待が高まっているが、昨今の経済状況ではできることとできないことがある。商工会議所として意見書を提出させていただいたが、再生のグランドデザインを描くことが重要かと考えている。駅前商店街でも再整備に関する取組みが始まりつつあるため、民間事業者と行政が連携し、駅前も含めて面的に一体となった取組みを展開できるよう、鳥取市には考え方を示していただきたい。
- ・駅前再生の事業は50年に1度の大事業である。何年にもわたる事業であるからこそ、状況の変化が想定され、その変化への対応が求められると認識している。民間事業者との連携なしに事業の効果を発揮していくことは難しく、それ故に商工会議所からの意見は重く受け止めるべきと考えている。整備計画（素案）にも、商工会議所の意向を反映できるのであれば反映していただきたい。

7) 整備計画（素案）の審議

- ・デザインやレイアウトの内容を含め、整備計画（素案）を翌週（3月17日）に控える「リ・デザイン会議」に諮り、検討を進めたいと考えるが、異議無いか。⇒異議なし

【開 会】

- ・来年度の計画策定に向け、本日の意見を踏まえ、個別の協議も実施しながら検討・調整を進める。